

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

326号

2018年4月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

南北・朝米首脳会談と平和と統一の新しい時代

●「平昌オリンピック」から「第3回南北首脳会談」へ

平昌冬季オリンピックに金正恩(キム・ジョンウン)委員長の特使として参加した金与正(キム・ヨジョン)氏は、南北首脳会談の開催を提案し、文在寅(ムン・ジェイン)大統領は「今後条件を整えて成功させよう」と応じました。その後、水面下の協議を経て3月5日には文在寅大統領の特使がピョンヤンを訪問して金正恩委員長と会談し、4月末に板門店南側地域の「平和の家」で第3回南北首脳会談を開催することで合意しました。

第3回南北首脳会談を契機に、政治・軍事・経済・文化など各分野の南北対話と交流が持続的に推進され、韓国と朝鮮は「ゆるやかな連邦制統一」の時代に入っていくことになるでしょう。



金正恩委員長

文在寅大統領

トランプ大統領

おりしも文在寅大統領の特使としてピョンヤンを訪問した韓国政府代表団は、3月8日にワシントンを訪れ、トランプ大統領に金正恩委員長との会談内容を直接伝達するとともに、トランプ大統領との早期会談を求める金正恩委員長の意志を伝えました。トランプ大統領は、その場でこれを受諾し5月に金正恩委員長と会談すると表明しました。ついに史上初の朝米首脳会談が開催されることになったのです。

●朝米首脳会談と

「朝鮮半島の非核化」

朝米首脳会談の最大の焦点は「朝鮮半島の非核化」です。朝鮮は「朝鮮半島の非核化は金日成主席の遺訓だ」とくりかえし強調していますが、金日成主席が亡くなったの

●歴史的転換期を迎えた朝米関係

金正恩委員長は、昨年11月29日の「火星15型」ミサイルの発射実験の成功をもって「国家核武力の完成」を宣言しましたが、1月1日の新年辞ではもう一步踏み込んで「核のボタンが私の執務室の机の上にいつも置かれている」と語りました。これは「火星15型」ミサイルの実戦配備が完了したことを指しているものと思われます。

さらに朝鮮は、2月8日に軍事パレードを行いました。驚くべきことに「火星15型」ミサイルが4基登場しました。わずか2か月の間に「火星15型」ミサイルが新たに4基増産されたこととなります。このような事態を目の前にして米国の政権内外では、核・ミサイルの凍結のために一刻も早く朝米対話を行うべきだという声が日に日に高まっていました。

は1994年で、この時点で朝鮮は核を保有していません。したがって「朝鮮半島の非核化」とは「朝鮮の核放棄」ではなく「アメリカによる核攻撃の脅威の除去」を意味しています。すでに朝鮮は、核・ミサイルの凍結意志を表明しました。これに呼応して、アメリカが米韓合同軍事演習の中止を約束し、朝米両国が平和協定締結に合意することで朝鮮半島における戦争の危機は収束し「朝鮮半島の非核化」は実現されるのです。

南北は「ゆるやかな連邦制統一時代」へ、朝米は「平和的共存時代」へと向かうこの歴史的好機を逃さず、在日同胞と日本民衆はその連帯した力で、南北・朝米首脳会談を積極的に支持するとともに、日本政府の対朝鮮敵視政策を転換させ、朝日国交正常化を実現するため、ともにまい進していきましょう。(金五)

南北・朝米首脳会談を支持・歓迎し、

朝鮮半島の平和統一を実現しよう！

南北・朝米首脳会談を支持・歓迎する3・21集会

4月に南北首脳会談、5月に朝米首脳会談の開催が発表され、朝鮮半島情勢が大きく変化する中、韓統連関西協議会主催で「南北・朝米首脳会談を支持・歓迎する3・21集会」が3月21日（水）、国労大阪会館（大阪市北区）で開かれ、多くの会員、地域同胞、日本人が参加した。

集会では最初に、金隆司（キム・ユンサ）韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ、「南北及び朝米首脳会談の開催が発表され、朝鮮半島情勢は転換点を迎えている。4月に韓米合同軍事演習が規模を縮小して実施され、その一方で、韓国の芸術団がピョンヤンを訪問して公演を行う。従来にはなかったことで、とても柔軟な対応だ。今後は平和と統一のために何かに反対するのではなく、共に作っていくという姿勢で運動に取り組んでいこう」と語った。

次に、朴明哲（パク・ミンチョル）韓統連中央本部組織局長が挨拶を行った後、金昌五（キム・チャンオ）韓統連大阪本部副代表委員が情勢講演を行った。



▲情勢講演を行う金昌五副代表委員

金副代表は講演を通じ、初の南北女子アイスホッケー統一チームの結成、三池淵管弦楽団のソウル公演などの事例をあげながら「平昌オリンピックは、まさしく平和と統一の祭典になった」と述べるとともに、「南北高位級特使団の往来より、南北首脳会談の開催合意を成し遂げた」と語った。

続いて「朝米首脳会談の開催は、今後の朝鮮半島情勢に大きな転換点をもたらす」と述べる一方、オリンピック開幕式での不誠実な振る舞いをした安倍首相＝日本政府は「最悪の反統一勢力」と批

判した。そして「4月の南北首脳会談後も、南北関係は持続的に発展する」と述べ、「平和と繁栄の新しい時代に向けて共に進んでいこう」と訴えた。

講演後は、平昌オリンピックに南北海外合同応援団の一員として参加した、李俊一（イ・チュンイル）韓青中央本部副委員長から活動報告が行われ、活動の成果を共有するとともに、共に参加した金里紗（キム・リサ）学生協会長、韓成祐（ハン・ソング）韓青京都府本部委員長から「南の青年学生たちと一緒に南北の選手を応援し、統一を実感した」などの感想が語られ、最後に崔孝行（チェ・ヒョハン）韓統連兵庫本部代表委員が閉会挨拶を行い、3・21集会は終了した。

憲法9条を守り、

辺野古新基地建設を阻止しよう！

止めよう！戦争への道 2018関西のつどい

イラク戦争から15年を迎え「イラク開戦15年 とめよう！戦争への道 2018関西のつどい（主催：同実行委員会他）」が3月24日（土）、エルシアター（大阪府中央区）で開かれた。

つどいでは、大阪・戦争させない1000人委員会代表の米田彰男さんが開会挨拶を行った後、元内閣官房副長官補の柳澤協二さんが最初の講演を行った。



▲デモ行進を通じ、反戦平和を訴える

柳澤さんは講演を通じ、自衛隊のイラク派遣の教訓として、自衛隊がイラクで一発も撃たなかったことなどを指摘しながら、「イラクでなぜ自衛隊が歓迎されたか。それは戦争をしないという日本のブランドがあったから」と語り、専守防衛の

大切さを訴えた。

また「日本は北朝鮮のミサイルの脅威について“いつ飛んでくるのか”ばかり言って、“なぜ飛んでくるのか”をもっと考えるべきだ」と述べ、圧力や制裁ではなく、外交努力の重要性を主張した。

続いて、沖縄のヘリ基地反対協議会共同代表の安次富浩さんが講演を行った。安次富さんは2月の名護市長選挙の敗因について、個人的見解としながら「選対本部に自民党候補に勝てるという慢心・過信が生じた」と述べながら、「11月の沖縄知事選挙勝利に向けた闘いの再構築が求められる」と語った。そして「市長選挙では負けたが、辺野古新基地建設阻止に向けた闘いは健在だ」と述べ、つどい参加者により一層の支援・連帯を訴

えた。

その後、つどいでは立憲民主党、社民党代表から連帯挨拶を受けた後、崔誠一(チェ・ソイル)韓統連大阪本部事務局長が朝鮮半島情勢についてアピールを行い、「南北・朝米首脳会談開催が発表され、朝鮮半島情勢は平和への道へと進もうとしている。この情勢を活かし、止めよう！戦争への道から、進もう！平和への道へと運動を発展させていこう」と訴え、最後に、しないさせない戦争協力関西ネットワーク共同代表の中北龍太郎さんの閉会挨拶を述べ、関西のつどいは終了した。

その後、参加者はデモ行進を行い、道行く人々に「憲法9条改悪を許すな！」「辺野古新基地建設反対！」などを訴えた。

〈次代を担う若者たち〉 —韓青大阪本部 活動紹介—

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュル)です。すっかり暖かくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。韓青大阪本部ではこの間も元気に活動してきました。

3月3日～5日には、韓青の冬の代名詞である全国冬期講習会を開催しましたが、今回はいつものスキーキャンプから趣向を変えて、なんとここ生野の地で講習会を開催することになりました。大阪市生野区と言えば、ご存知の通り在日同胞の最大密集地であり、現在では生野コリアタウンなど韓国文化の発信地にもなっています。そのような生野の歴史と魅力を全国の仲間たちにも味わってもらいたいと思い、韓青大阪本部のメンバーは熱心に準備を進めてきました。コリアタウンや大阪城砲兵工廠あとを巡るフィールドワーク、チャンゴ、チョゴリ、テコンドーを体験するワークショップなど魅力的な企画を準備しました。1日目の夜に開催された「コリアン青年パーティー」では、コリアタウンで販売している蒸し豚やキムチがとても好評で、普段から日常的に過ごしている私たちにとっては改めて「生野の魅力」を再発見することができました。

メインイベントの「民族文化マダン」では、今年70周年を迎える「済州島4・3民衆抗争」をテーマにした演劇を発表。大阪のメンバーの熱演によって、参加者に大きな感動を与えることができました。地元開催だけあってプレッシャーのかかる冬期講習会でしたが、たくさんの同胞青年が参加し、大成功に終えることができました。

5月には統一マダン生野が控えています。今回のマダンは南北首脳会談や朝米首脳会談の開催決定という、とても良い情勢の中で開催されるので、韓青大阪本部のメンバーも前向きな気持ちで、がんばって準備していきたいと思います。今後も宜しくお願い致します。



▲全国冬期講習会での記念写真

3・11東日本大震災から7年を迎えて

申孝信 (シヨウシン)

2011年の東日本大震災から今年で7年を迎えました。今号の自主(チヤジユ)では、仙台在住の申孝信さんに依頼して、復興に向けた現状と課題について書いて頂きました。

地震が発生して7年が経ちました。「もう7年か、まだ7年か」という捉え方には其々の思いがある事でしょう。思い返せば地震発生当時、私は3時からの仕事の準備に取り掛かっており、妻は2階の居間でくつろいでいました。突然、地の底から響く不気味な地鳴りと共に大きな縦揺れに続く横揺れに、思わず床に膝をついて揺れが収まるのを待っていました。時間はほんの2～3分だったかと思います。揺れが収まり、2人で外に出ようとした時、2度目の大きな地震響きと共にさらに大きな揺れが来ました。妻はテーブルの下に潜り込み、パニック状態でした。食器棚の扉が開いてあらゆる食器が飛び出し、床にある全てものがまるで踊っているように飛び跳ねていました。



▲被災した女川町石浜地区。
宋神道ハルモニの住まいは写真右端辺り

ようやく長く、大きな揺れが収まり、外に出てみると我家の周りの景色は一変していました。いたるところで電線が垂れ下がり、近所のマンションの屋上にあった水槽が傾き、そこから水が滝のように流れ出していました。近くを走っている貨物線上の貨物列車は緊急停止。そこいらじゅうの家屋の屋根瓦がずり落ちているのです。そして、地震直後から停電になっていたために、どうやって地震の被害や、3時過ぎに押し寄せた巨大津波の情報を得たのか、はっきりとは覚えていないのです。それほど私は混乱していました。津波が押し寄せる映像を視たのは翌日の夜、停電が回復してからです(私の地域は何故か仙台市内で一番早かったようです)。そして当日の記憶は、その日の夕方に大粒のボタン雪が降り、とても寒い夜だったこと。街灯の灯りや家々の灯りがなく、雪が降り

止んだ夜空には満天の星がとても綺麗に見えたことでした。

その後の2～3日は家族の無事を確認したり、友人・知人の消息を確認するために市内を自転車で走り回って過ごしましたが、その間、街の景色の色彩が暗い灰色にしか見えなかった事を覚えています。街のコンビニをはじめとするスーパーや商店の食品棚はアッと云う間に空になり、街中のあちこちを食料を求める人たちがさ迷い歩き、携帯電話の充電に長い列をつくっていました。

呆然と過ごしていた私を励まし、力づけてくれたのは、韓統連大阪の諸氏や阪神淡路大地震を経験した尼崎の崔孝行(チュエ・ヒョハン)氏から頂いた電話でした。また三重の金相祚(キム・サンゾ)氏からの励ましの電話もありました。改めて感謝いたします。また韓統連中央本部からも仙台まで見

舞いに来て頂いたことに、どれだけ励まされたか言葉が見つかりません。

5月の連休には、韓統連や韓青・民主女性会の皆さんによる炊き出し活動が被災地である山元町で実施されました。この炊き出し活動が、その後の私の被災地支援活動の出発点ともなりました。

大震災から7年も経過すると、各被災地の復興も問題をはらみながらも進んではいます。復興住宅の建設もほぼ計画通り完成し、被災者の皆さんは入居した復興住宅で新しい生活を始めていますが、問題は震災前のコミュニティーが消滅してしまったこと。また復興住宅の入居は抽選式を採用したところが殆どであったために、仮設住宅で新しくできたコミュニティーも、復興住宅団地に引き継がれず、また新しく作り直さなければな

らないというジレンマも発生しています。このような状況の中で高齢者の引きこもりや孤独死など、震災関連死といわれる悲劇も聞かれます。

さらに家賃の問題も深刻な問題です。復興住宅は無料ではなく、現在は1万円台の家賃が設定されていますが、多くの場合、入居後5年を過ぎると家賃が相場並み(5万円～7万円)に引き上げられるのです。この家賃の値上げには、年金だけが唯一の収入としている高齢者家庭や独り暮らしのお年よりに重くのしかかってくる。多くの自治体では家賃値上げの猶予を延長してはいますが、根本的な解決にはなっておらず、不安な生活を続けています。また津波が到達した地域は「津波危険地域」に指定され、自分の土地に住宅を再建できなくなった住民も沢山存在しています。

●東京オリンピックが震災

復興の足を引っ張っている

2020年オリンピック東京開催招致の際、安倍晋三首相は「東京オリンピックを震災復興オリンピックと位置付ける。福島原発事故は完全にコントロール下にある」と断言して招致に成功しました。しかし、安倍総理の思惑とは逆に、東京オリンピックは各地の復興事業に様々な悪影響をもたらしています。

オリンピック準備の大規模な建設作業が始まると建設作業員が復興現場から引き抜かれ、復興工事の作業員不足が生じているのです。そのために復興計画の遅れなどが出ていることや、オリンピック関連工事の影響で資材不足と値段の高騰などが指摘されています。それは自力で自宅を再建しようとする被災者にも影響しています。予算オーバーで再建計画を諦めたという事例も沢山見聞します。結局、復興五輪の「めだま」と言われた宮城県でのボート競技開催はとん挫。わずかにソフトボール競技が福島県で実施され、他にサッカーの予選が数試合実施されるのみです。

「東京オリンピックは復興オリンピック」と標榜する欺瞞は、原発事故の避難指示解除にも見ら

れます。改めて言うまでもないことですが、今なお事故の収束すら見通せていない東電福島原発の事故は、3・11の地震と押し寄せた津波によって非常用発電機の全てが水没したため、炉内冷却水のポンプが作動せず、炉心内にあった燃料棒が溶融、いわゆるメルトダウンを起こした深刻な事故でした。高温になった原子炉建屋では水蒸気爆発が起きて、大量の、そして深刻な放射性物質を大気中に放出した「起こりえない事故」でした。

事故が起きた当時、政府や東電が事故内容を発表する前から「福島原発でメルトダウンが起きている」という内容のメールが交錯していました。



▲現在の石浜地区。
4Pの写真とほぼ同じ位置から撮影

当初は悪質なデマかと疑っていましたが、それは事実でした。数日後には政府も東電も「メルトダウン」を認め、深刻な放射能汚染は今日まで、そして将来にわたって続いて行くのです。

最後に福島原発事故によって、隣接する町村の住民は避難生活を強いられていますが、安倍政権は、帰還困難区域を

除いた地域の避難指示を解除(2017年3月)しました。しかし、避難指示が解除された地域は、未だに高いレベルの放射線が検出されているのです。例え懐かしいふるさとであっても「解除地域は年間20ミリシーベルト未満で生活に影響はない」と言われても、避難生活を続けている住民の皆さんが、子どもを連れて安心して帰還できる状況ではありません。言わば、これらの処置は2020年東京オリンピックを最優先し、「もはや福島原発事故は収束に向かっています」という、安倍政権の世界に向けた『付度安全宣言』と、東電の事故補償負担軽減を優先した処置と言えます。しかし、誰が何と言おうと、未だ放射能汚染は現在進行形です。そして、事故処理の費用がどれだけ掛かるか、何年かかるのか誰も分らないのです。しかも、原発事故の補償費用や事故処理の巨額な費用は、日本国内の全世帯に広く、浅く負担させて、東電の経営破たんを回避しようとしているのです。(了)

◆読書紹介◆

知ってはいけない

隠された日本支配の構造

著者：矢部宏治

講談社現代新書／840円＋税

本書は昨年8月に刊行されて、9万部突破のベストセラーとなっている話題の書である。アメリカの同盟国は世界中に数多く存在するが、本書を読めば日本は特にアメリカの「いいなり」になっている国であり、沖縄米軍基地問題や北方領土問題がいつまでたっても解決しない理由が、米軍による事故や犯罪が何度も繰り返される理由がよく分かる。

米軍は日本のどんな場所でも基地を建設することができて、さらにその日本の基地から出撃して、他国を攻撃・排除する権利を地位協定と密約によって法的に保障されているのである。だから韓米合同軍事演習を行うたびに、アメリカは日本の基地から米軍の空母や戦闘機などを出撃させて、北朝鮮への挑発を行っているのである。

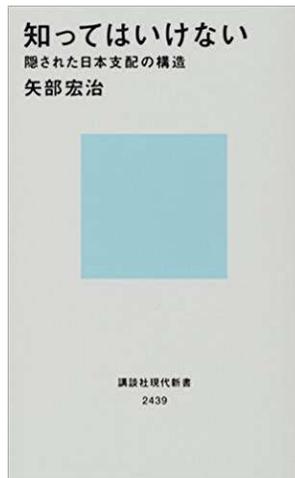
かつてアメリカのリンカーン大統領は「人民の人民による人民のための政治」という有名な発言をしたが、この発言を私流に拝借すると、米軍のやりたい放題にされている日本は「米軍の米軍による米軍のための日本」である。そして、日本が改憲と軍拡によって「海外で戦争する国」を目指

している理由が「戦争になったら、自衛隊は米軍の指揮のもとで戦う」という指揮権密約が存在しているからだと本書で指摘している。

アメリカが海外で戦争をする時に、自国だけでなく人的・経済的負担が増大するので、できるだけ数多くの同盟国、特に日本にも参戦してほしいからである。

日本がなぜ米軍の法的特権を保障するアメリカの「都合のいい国」になってしまったのか。P199で「一言でいうと、その原因は全て朝鮮戦争にあったということです」と指摘している。P202に書かれていた日本のアメリカ支援の部分を読んで、私は「日本も朝鮮戦争の参戦国だと心の中で叫んだ。著者の矢部宏治さんは「週刊実話（2017年10月1

2日発売）」のインタビューで、「アメリカと北朝鮮が平和条約を結んで、朝鮮戦争を正式に終わらせる方向に進めば、日本が現在のような米軍支配から脱する可能性も出てくるでしょう」と言っている。そのためにも南北・朝米首脳会談を成功させなければいけない。（李淳明）



◆◆行事案内◆◆

韓統連生野支部連続学習会

駐韓米軍とは何か

～今こそ問われる、その歴史と本質～

日時：4月15日（日）午前11時～

場所：韓統連生野支部

大阪市生野区勝山南4-1-13

参加費：会員300円・一般500円

問合せ：090-4495-3863（金）

韓統連大阪本部 春季野遊会

日時：5月3日（木・祝日）午前11時～

場所：淀川河川公園太子橋地区バーベキューエリア

地下鉄“太子橋今市駅”下車4番出口から徒歩8分

参加費：大人2千円・中・高校生1千円

小学生以下は無料

※雨天の場合は中止です。

主催：韓統連大阪本部 06-6711-6377

編集後記

季節は春。南北・朝米首脳会談が決まり、朝鮮半島情勢も春を迎えようとしています。この機を逃さず、平和と統一の実現に向け、より運動を推進していきましょう。（ソン）